

平成29年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 後志地区
- 2 事例報告学校名 : 仁木町立仁木小学校
- 3 報告者 : 校長 渡邊 均
- 4 キーワード : 学力向上の取組

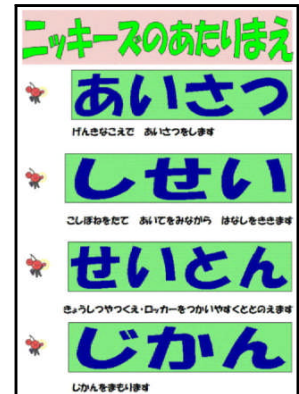
1 はじめに

仁木町は、気候が良く、果樹栽培が盛んで「果実とやすらぎの里」が町のキャッチフレーズとなっています。本校は、明治19年に開校し今年で131年目を迎えます。教育に関心の高い保護者・地域の大きな協力の下で、「果実とやすらぎの里に生きる人間性豊かな子どもの育成」を目指し、全校児童116名をNIKIDS（ニッキーズ＝仁木の子どもたち）という愛称で呼びながら、学校・地域が一体となって様々な教育活動を行っています。「**に**こにこ元気で、**き**らきら輝く、NIKIDS」を目指して、日々前進しているところです。

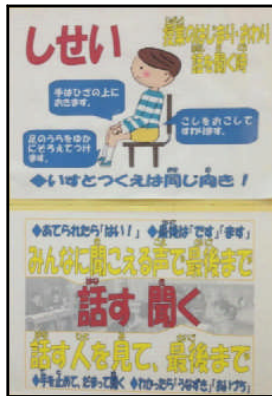
2 具体的取組

①生活・学習規律の確立

【ニッキーズのあたりまえ】として全校で意識している4つの基本【◇あいさつ◇しせい◇せいとん◇じかん】を各学級に掲示して意識付けしながら、月ごとに定着度合を確認して、特に定着を必要とする項目を重点として徹底を図っています。



6年生の机の上↓



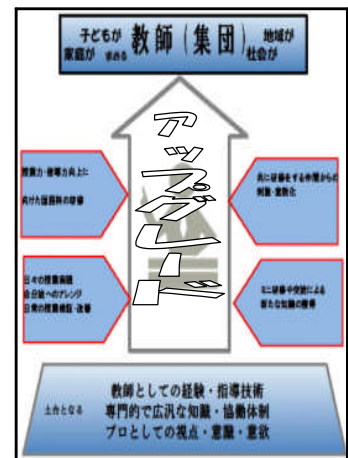
5～6月の重点↓



②授業改善の取組

基礎・基本の確実な定着を図るための授業改善を軸に校内研修に取り組み、【見通しを持たせ主体的に学ぶ姿勢をつくること】と【効果的な指導過程により児童が学び合うこと】を視点にして研究を進めています。国語科の研究活動を通して全ての教科での授業改善を図り、対話的で深い学びが実現できるように、教師一人一人が自分の力をアップグレードすることを目指しています。

校内研修のイメージ→



③個に応じた指導の充実

教科担任1名と町から配置されている学力向上支援員3名を効果的に活用し、き



複数配置の授業

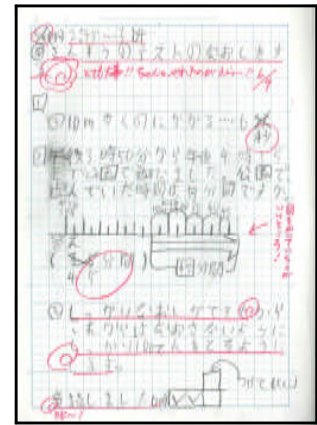
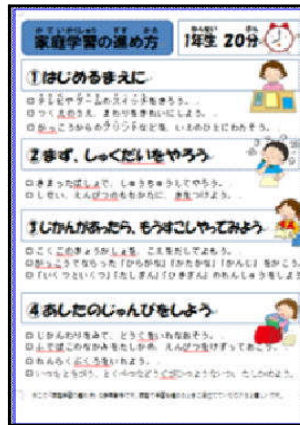
め細かな指導ができるよう工夫しています。算数科については全て複数の教職員で指導に当たることができるよう、毎週木曜日に全学級の時間割調整を行い、配置の計画を立てています。また、最低週1回、放課後学習の時間を確保し、算数科を中心に基礎基本の定着を図っています。長期休業中の補充学習についても、町と連携した取組を充実させています。

家庭学習の進め方↓

ノートの実際↓

④家庭学習習慣確立のために

学年の発達段階に合わせた家庭学習の進め方について、自宅に掲示できるように要点を示したプリントを作成・配付しています。低学年は宿題を主としてプラスαを推奨し、3年生から自主ノートでの学習に取り組ませています。家庭学習習慣の定着は、本校児童の大きな課題であることから、児童が迷わずに学習に取り組むことができるようにやり方を示すとともに、教師の点検により意欲化を図り、継続できるようにしています。



⑤小中連携の取組

平成28年度から中学校と連携した具体的な取組を始めました。授業交流が中心だった昨年度から今年度は一歩前進し、教務・研修担当による会議を開催し、学習規律や授業の指導過程等の交流を行うとともに、互いに公開授業を行い協議する合同研修会を実施しています。小学校教員は中学校の組織的な生徒指導体制やより専門的な授業の展開について学ぶことができ、中学校教員は小学生の心理やきめ細かで丁寧な指導方法等について学ぶことができます。互いのよさや課題をわかり合うことで、9年間を見通した教育活動の展開が可能になっていきます。今後は、中学校教員による乗り入れ授業の回数を増やすなど、取組を広げていきたいと考えています。



小中合同研修会

3 おわりに

☑こにこ元気で、☑きらきら輝くための NIKIDS の挑戦について紹介してきました。特別なことや難しいことをしようとは考えていません。誰もが取り組めることをきちんと行わせ、小さな成果を地道に積み上げていくことが大切です。ですから、【NIKIDS のあたりまえ】こそ、最も意識して指導しなければならないことだと押さえています。そして、それは【学校に関わる全ての人のあたりまえ】でもあり、まずは校長が率先して実行しなければいけないと考えています。職員室には、「師弟共育」と書かれた額がかかっています。全教職員が、このあたりまえを実践し、子どもたちや地域とともに育ちながら、よりよい教育を実現できるよう学校づくりを進めているところです。